

KPOS-TPOS-JPOA Exchange Fellowship 訪問記

九州大学大学院 医学研究院 整形外科

河野 裕介

KPOS-TPOS-JPOA Exchange Fellowship として、2013年10月23日～28日に台湾を訪問しましたのでご報告いたします。

出発に先立ち、日本小児整形外科学会国際委員長の川端秀彦先生より Kuang-Tien General Hospital の Dr. Pen-Gang Cheng を紹介していただき、同氏に行程を調整していただきました。期間中、前半は台中を拠点に Kuang-Tien General Hospital と高雄の Kaohsiung Veteran General Hospital を訪問しました。後半は台北を拠点とし、Taiwan University Hospital の訪問と、National Defense Medical Center で開催された TOA (Taiwan Orthopaedic Association) の annual meeting に参加してきました。

10月23日、福岡から2時間強で桃園国際空港へ到着しました。

そこから Dr. Cheng の勤務する台中の Kuang-Tien General Hospital へ移動しました。ここは1913年に設立された台湾で最古の個人事業主による病院であり、約1300床もある大病院です(写真1, 2)。院内を案内していただいた後に、院長の Prof. Matthew Nai-Hwei Wang より先生方の業績の一部(痛みの持続する young adult の臼蓋形成不全に対する slotted acetabular augmentation の治療成績、Monteggia 骨折の橈骨頭脱臼が遺残した陳旧例に対する尺骨骨切りによる橈骨頭等整復と靭帯再建の治療成績)を紹介していただきました。いずれにおいても、見逃しによって問題となるケースがあり、Prof.Wang からは「日本では DDH の健診制度が整っていて羨ましい」とコメントをいただきました。初日の夕食は、Dr. Cheng と台中の日本料理屋へ行きました(写真3)。食事後、台中市街や夜市などを車で案内していただきました。

10月24日、AM7:40からの Journal Club に参加しました。橈骨遠位端骨折に合併する舟状月状骨間靭帯損傷の診断に関する話題でした。また、Dr.Cheng より比較的まれな外傷である Galeazzi 類似骨折における尺骨遠位骨端離開についてレクチャーを受けました。Galeazzi 類似骨折は背屈型と掌屈型に分類でき、前者は徒手整



写真1 Kuang-Tien General Hospital



写真2 スタッフの先生方。前列右から Dr.Cheng, 筆者, Prof.Wang



写真3 台湾で大変お世話になった Dr.Cheng と

復が可能なのに対して、後者は ECU の介在で観血的整復が必要となることが多いということでした (Traumatic Separation of the Distal Ulnar Physis in Children : A New classification for Displaced Volar-Flexion Injuries というタイトルで J Orthop Trauma. に publish されています)。午後は Dr.Cheng と High speed rail という台湾の新幹線で高雄の Kaohsiung Veterans General Hospital を訪れ、Dr.Weï-Ning Chang の Gait laboratory を見学しました (写真 4)。脳性麻痺の歩行解析を行っている施設であり、患者にセンサーをつけて 10 台のカメラで撮影し、筋電図の解析、フットプリントの解析、歩容の解析などを通じて必要な術式を導き、確信を持って手術に臨むことができるとのことでした。その後、Dr. Chang の車で左営蓮池潭、愛河など高雄市内の名所を案内していただき、最後に訪れた小高い丘の上にある打狗英国領事館から見る夕陽は、とても綺麗でした (写真 5, 6)。

10 月 25 日は新幹線で台北に移動し、National Taiwan University Hospital へ向かいました。Prof.Ken-Nan Kuo は第 23 回の本学会にて Clubfoot perspective と題して、ご講演されています。午前は手術の見学でした。初めに Dr.Wang Ting-Ming の執刀する DDH に対する modified Ganz osteotomy と Dr.Wu Kuan-Wen の執刀する CP の club foot の手術が並列で行われました。Prof.Kuo はいずれの部屋でも適宜アドバイスをされています (写真 7)。Ganz osteotomy においては被覆の改善だけでなく、骨頭の内方化の重要性を強調されました。また、Chang Gung Memorial Hospital に来られていた千葉の森田先生と偶然にも手術室でお会いすることができました (写真 8)。日本語が恋しくなり始めていたこともあり、とても安心したことを思い出します。午後は Prof.Kuo の外来を見学しました (写真 9)。待合室は患者であふれていましたが、患者・家族に非常に丁寧に接していたことが印象的です。Prof.Kuo の外来には数人の若手医師が付き、問診をとったり、Prof.Kuo の診察所見を英語でカルテに記入したりしていました。その日の夜は、学会のために台北に来られた Dr.Cheng と再び合流し、三越の台湾料理店でディナーをいただきました。

10 月 26 日は TOA の第 65 回 annual meeting に参加しました (写真 10)。プレゼンテーションは中国語ですが、すべての発表でスライドが英語であったことが印象的であり、また刺激にもなりました。小児整形のセッションでは口演の演題数は 15 と多く

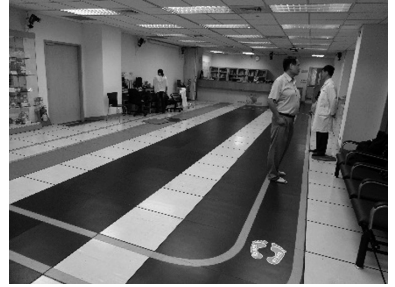


写真 4 Kaohsiung Veterans General Hospital の Gait laboratory



写真 5 打狗英国領事館にて Dr.Chang と



写真 6 打狗英国領事館からの夕暮れ時の眺め



写真 7 アドバイスする Prof.Kuo (左) と執刀医の Dr.Wang (中央)



写真 8 台湾大学の手術室内で昼食。右から Prof.Kuo、筆者、森田先生

はありませんでしたが、SCEF, DDH, ACL 損傷, CP, 思春期特発性側弯, 外傷など多岐にわたる内容でした。日本ではあまり見られない Crossfire というディベートのようなセッションでは、modular neck の是非についてそれぞれの立場からのプレゼンテーションと、その後の活発な討論が印象に残りました。その日のディナーは Prof.Kuo ご夫妻, Dr.Wang ご夫妻, Dr.Wu ご夫妻, 森田先生と真的好海鮮餐廳でいただきました(写真 11)。

10月27日の午前中は学会に参加し、午後は Dr. Cheng の息子さん(現在アメリカ在住ですが、たまたま台湾へ帰省していたようです)に台北市内を案内してもらいました。この日最後に訪れた、猫空という場所には全長 4033 m のロープウェイがあり、標高が上がるにつれ台北の街を遠くに見下ろすことができます。台湾でも有数のお茶の産地であり、山の斜面には茶畑が広がっていました。鉄観音茶と呼ばれるお茶が有名だそうです。茶店では茶葉を注文し、出された茶器セットを使って自分でお茶をいれる形式で、余った茶葉は持ち帰ることができます。映画のワンシーンのような夕暮れ時の幻想的な風景はとても印象的でした(写真 12)。

今回の台湾訪問は1週間という短期間で多くの先生方と出会うことができ、大変充実した時間を過ごすことができました。台湾の人の国際的な視野を持った考え方は、私には大いに刺激になりました。台湾での滞在中、ほぼ一緒に行動し、面倒をみていただいた Dr.Cheng には心より感謝申し上げます。台湾という国やそこで暮らす人々の素晴らしさに感動し、今後とも交流を続けられたらと思っております。

最後にこのような機会を与えてくださいました清水克時理事長、岩本幸英前会長、川端秀彦国際委員会委員長をはじめとする日本小児整形外科学会の先生方に、この場をお借りして心より感謝申し上げます。



写真 9 Prof.Kuo の診察室にてスタッフの先生方と



写真 10 TOA 会場



写真 11 台湾大学の先生方・ご家族との夕食



写真 12 猫空の風景